

子どもたちが
地域の生きものと
ふれあう場

学校
園庭

ビオトープを つくろう



皆さんの周りに、メダカやゲンゴロウ、カブトムシやクワガタ、マツムシやクツワムシなどの生きものはくらしていますか？地域によっては、すでに自然がなかったり、緑はあっても生きものの姿があまり見られなかったりします。

こうしたなか、学校・園庭ビオトープは、地域の生きものと、子どもたちが日常的にふれあうことができる場です。

目次

学校・園庭ビオトープとは・・・・・・・・・・	P2
学校・園庭ビオトープは	
生きものが集う拠点・・・・・・・・・・	P3
学校・園庭ビオトープの様々なかたち・・・・・・・・	P4
学校・園庭ビオトープをつくろう・・・・・・・・	P6
学校・園庭ビオトープに継続的にかわろう・・	P8
学校・園庭ビオトープの参考情報・・・・・・・・	P8

学校・園庭ビオトープとは



ビオトープとは、bio（生きもの）とtop（場所）を組み合わせたドイツ語で「地域の野生の生きものがくらす場所」を意味します。地域本来の自然そのものがビオトープであり、草原、森、水辺など様々なタイプがあります。

学校・園庭ビオトープとは、その地域本来のビオトープをお手本に、学校や園の敷地などにつくった、子どもたちが自然の生きものと出会う場です。子どもの主体的な遊びの場となり、様々な能力を育む場となります。

子どもにとっての遊びの場・学びの場

感性や創造性を育む場に

土、変わった形の葉、きれいな実、昆虫など、様々なものがあります。子どもたち一人ひとり異なる興味に応え、感性や創造性を育む主体的な遊びを促します。

授業を通じた学びの場に

理科や総合的な学習の時間にとどまらず、国語では詩の題材、図工のスケッチの対象など各教科、各学年の教材となります。



自然との共存を考える野外の実験室として

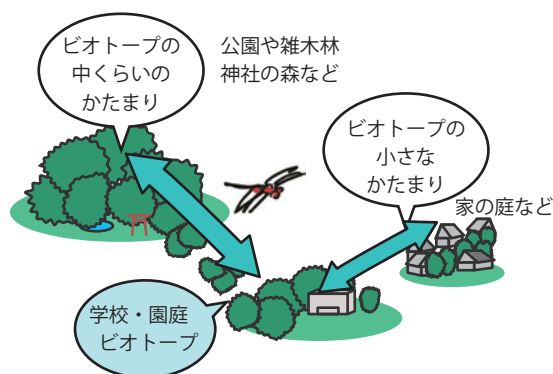
自然との共存を進めるためには、地域本来の自然、生きものの生態、人々の思いなど様々なことを理解し、生きものや関わる人々が「イイネ!」と思える環境にしていけることが求められます。学校・園庭ビオトープは、こうした自然との共存を体験的に学ぶ実験室と言えます。

学校・園庭ビオトープは 生きものが集う拠点

学校・園庭ビオトープは、自然の拠点のひとつです。草原や水辺などのビオトープと飛び石状にでもつながることで、様々な生きものが利用します。

地域の生きものがくらす場に

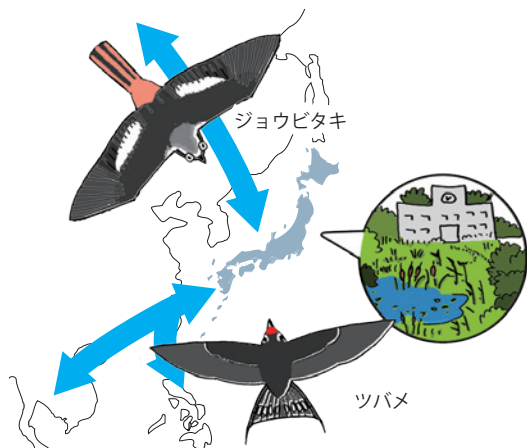
トンボや野鳥のように移動能力が高い生きものは、食べものや産卵場所等を求めて様々な場所に訪れます。学校・園庭ビオトープも、こうした地域の生きものが集う拠点のひとつになります。



世界の生きものが利用する場に

学校・園庭ビオトープは、地域だけでなく、国をまたいで世界の生きものが利用します。

例えば、夏には東南アジアからツバメが子育てに、冬はロシアなど大陸からジョウビタキが越冬しに、海を渡ってやってきます。



コラム：学校・園庭ビオトープで育みたいのは在来種

生きものには、自然にくらす生きもの（在来種）のほかに、人が持ち込んだ生きもの（外来種）や、犬や猫等のペット、農作物、園芸種などがいます。

子どもたちの地域本来の自然について体験的な理解を促すために、学校・園庭ビオトープでは在来種を育む必要があります。

- ・在来種
- ・外来種
- ・ペット、農作物、園芸種

学校・園庭ビオトープの様々なかたち

学校・園庭ビオトープには、規模や設置場所に応じて、様々なかたちがあります。実践例を参考に、イメージを膨らませましょう。

テラスを改造

0歳児からの自然体験

くらき永田保育園



草木や昆虫、鳥などの生きものが、子どもたちの身近に存在できるように、たくさんのプランターを組み合わせ、園舎 2 階のテラスに園庭ビオトープをつくりました。

子どもたちは、日常的に自然とふれあい、さらに野草への水やりなども手伝います。作業も遊びの一環で、昆虫や木の実を見つけたりして楽しんでいます。

ポイント

- ・ベランダ等の限られた敷地でも、学校・園庭ビオトープをつくることができます。
- ・様々な大きさのプランターを組み合わせることで、草地から茂みまで多様な環境をつくりだすことができます。

子どもと野鳥が喜ぶ

水辺づくり

岡崎市立生平小学校



野鳥が集まる池を目指し、もともとあった池のビオトープを作り直しました。池は、浅いところ深いところを設けて、キセキレイなどの小型の野鳥からアオサギなどの大型の野鳥まで、様々な種類が利用できるように工夫しています。

子どもたちは、授業だけでなく、休み時間にも池の中やその周辺の生きものの観察を楽しんでいます。

ポイント

- ・池の水深に多様性をもたせることで、多様な生きものが利用できます。
- ・水量を確保するために、水道水の他に、雨水の活用も考えましょう。

涼しい・美味しい ガーデンシェード

寒河江市立醍醐小学校



この学校ビオトープは、在来種のツル植物でできたガーデンシェードです。ツルが支柱を覆って日陰をつくり、涼しい日よけの空間となることを目指しています。

秋にはアケビが実り、給食の時間に食べたり、ツルを用いてリースづくりを楽しんだり、自然とふれあう、憩いの場となっています。

ポイント

- ・グリーンカーテンをつくる際にも、在来種のツル植物を用いることで、ビオトープになります。
- ・フェンスや柵など、既存の構造物を利用してつくるができます。



誰もが自然にふれあえる 空間づくり

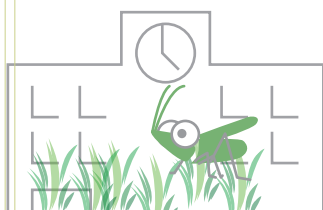
千葉県立船橋夏見特別支援学校



車いすを利用する生徒が多く通う学校です。車いすに乗ったまま、生きものを間近で見たり、触れたり自然体験しやすい学校ビオトープをつくりました。車いすの高さで観察できる池のほか、池の中をのぞき見れるように池の脇に丘をつくり、丘の上までスロープ状の観察路を設けるなど、様々な工夫が施されています。

ポイント

- ・間近に水面を見たり、植物を観察したり、障がいの有無にかかわらず、みんなが安全にふれあえる場づくりも可能です。
- ・手触りや匂い、水の流れる音など、五感で自然を受け止められる工夫をすることで、誰もが自然を楽しむことができます。



学校・園庭ビオトープをつくろう

学校・園庭ビオトープのつくり方を紹介します。子どもたちが、様々な場面で主体的にかかわることができるよう、教員・保育者が支援していきましょう。また、計画段階から、保護者、地域住民、自然の専門家を巻き込んでいきましょう。

1 計画する

呼びたい生きものを決めて、その生きものがくらしやすい場所を調べ、みんなで将来のイメージを共有しましょう。

ステップ1 地域本来の自然を知る

地域本来の自然や生きものについて調べましょう。生きものの名前やくらしについてわからないことは、地域の自然とふれあう施設や環境 NPO、ビオトープ管理士※などに聞いてみましょう。

※ ビオトープ管理士：公益財団法人日本生態系協会が認証するビオトープに関する専門家。ビオトープ管理士会のサイトで、地域で活躍するビオトープ管理士を検索できます。

ステップ2 呼びたい生きものを決める



地域本来の自然の生きものの中から、学校や園に呼びたい生きもの（目標種）を考えましょう。すぐに来そうな生きもの、将来的に呼びたい生きものなど複数選ぶと良いでしょう。地域で減っている生きものを目標種にする考え方もあります。

ステップ3 イメージを共有する

目標種の食べものや、すみかなど、くらしやすい条件を話しあい、つくりたい学校・園庭ビオトープを具体的に描き、広く共有していきましょう。

2 つくる

学校・園庭ビオトープをつくる時には、子ども、保護者や地域住民など、様々な主体と一緒に取り組みましょう。時間をかけてかたちになった瞬間は、今までの苦労も吹き飛ばす達成感があります。作業にかかわった人たちは、学校・園庭ビオトープを育てる活動などにも協力してくれるようになります。



3 育てる

学校・園庭ビオトープは、つくってからがスタートです。目標種が訪れるように、日々の変化を観察し、理想の環境に近づくよう管理していきましょう。

変化を記録する

かたちができたら、学校・園庭ビオトープには様々な生きものが訪れ始めます。観察できた生きものを記録していきましょう。また、気温や水温、水深なども定期的に記録し、生きものが訪れた理由を環境の変化から考えてみましょう。



生きもののためにさらに工夫する

様々な生きものが訪れるよう、環境ごとに以下に留意し管理していきましょう。

環境ごとの管理方法

(草地)

草刈りを行う場合は、場所によって、刈り取る高さや頻度を変えてみましょう。生える草の種類が増えて、さらに、様々な生きものがくらし始めるかもしれません。

(樹林)

枝や落ち葉は、様々な生きものを育みます。ゴミとして捨てずに、ためておく場所をつくりましょう。

(水辺)

水面が見える場所、草に覆われている場所など、いろいろな空間をつくることで、複数の種類のトンボなどが利用するようになります。



(その他)

セイタカアワダチソウやオオブタクサなど外来種を見つけたら、増える前に抜き、在来種が育つ場所を確保しましょう。

学校・園庭ビオトープに 継続的にかかわろう

学校・園庭ビオトープは、生きものと人がつながるだけでなく、人と人がつながる場所でもあります。継続的にかかわり、学校・園庭ビオトープを地域の宝ものにしていきましょう。そのために、次のような点に留意しましょう。

継続的にかかわるための主な工夫例

- ・子どもたちの間で、また、教員や保育者間で、学校・園庭ビオトープができた経緯、目標種、将来イメージ、管理の留意事項などをとりまとめ、引き継いでいきましょう。
- ・学校・園庭ビオトープの魅力を、多くの人に伝えましょう。観察できる生きものや育てる活動を、看板や壁新聞・ホームページで紹介するなど情報発信をしていきましょう。
- ・地域住民に向け観察会や管理作業を行い、子どもとの交流の場を設けましょう。



学校・園庭ビオトープの参考情報

公益財団法人

三菱 UFJ 環境財団

「学校ビオトープづくり支援」

学校・園庭ビオトープの整備や拡充・改修の助成について紹介しています。

<http://www.muef.or.jp/muef/>

公益財団法人

日本生態系協会

「全国学校・園庭ビオトープコンクール」

学校・園庭ビオトープのモデル事例を紹介しています。

<http://www.biotopcon.org/>

日本ビオトープ管理士会

あなたのまちのビオトープ管理士が検索できます。

<http://www.biotop-kanrishi.jp/>

2022 年 2 月 発行

公益財団法人 三菱 UFJ 環境財団

〒105-0014 東京都港区芝 2-4-3

三菱 UFJ 銀行芝ビル Tel 03-5730-0337

協力

公益財団法人 日本生態系協会